

## 熊本障がい者スポーツ指導者協議会 研修会（講演会）

日 時：平成 28 年 6 月 25 日(土)14：45～15：45

場 所：熊本機能病院 南館研修ホール

講 師：二宮尚寛先生（熊本県庁職員）

競技経歴：【2004 年・2008 年パラリンピック出場経験】

演 題：「私とスポーツ」パラリンピックを経験して得たもの



上天草市大矢野町出身、1980（昭和 55）年 11 月 10 日生まれ、1 歳半の時、草刈機に挟まれ右上肢切断。物心ついたときには手が無かったので、腕が無いことは、特段気にはならなかった。家族からの特別扱いは無く、日常生活のすべてを自分でやっていた。陸上は、中学から本格的に始めた。家族が、学校に鞆を取りに来て、私は走って帰るというのが日課だった。これは、私への応援メッセージだったと感じている。中学高校では、一般の陸上競技大会に出場し、障がい者の大会の存在さえも知らなかった。そんな 1999 年、熊本国体後に開催された障がい者の国体「ハートフル大会」に出場する機会を得た。しかし、今までの大会とは異なり、同じ障がいレベルでの競技ということで、同じクラスに出場する選手が無く、一人でのレースとなり、結果は当然優勝だった。このことで、障がい者の陸上競技を知り、パラリンピック大会の存在と出場への思いが込み上げた。パラリンピック出場を目指して、障がい者が所属していた東京にある陸上チーム「A C-K I T A」に入った。当然ながら週末は東京へ出向き練習を重ねた。2004 年アテネパラリンピック（1500m5 位、5000m13 位）に出場し入賞する事ができた。さらに、その後は練習や大会の経験を生かし、地域の中で独自の練習を行い、北京パラリンピックにも出場した。これらの経験から、地方でも障がい者スポーツに関する情報が、タイムリーに取得できるシステムが必要だということ、そして、東京に行かなくても熊本で充実した練習ができる物理的環境とサポート体制が重要だと考える。これらを組み合わせることで、熊本でも多くの選手が発掘され、パラリンピック選手を多く排出できるのではないだろうか？

### 会長の謝辞

県庁職員として熊本地震の復興に向けてお忙し中、また、お疲れの所、当協議会の為に、貴重なご講演をいただき有難うございました。当協議会も、今後さらに障がい者スポーツの発展のために活動して行きたいと考えています。本当に有難うございました。